

教育警察委員会の概要（教育）

開催年月日	令和2年10月5日	開会、閉会時間	12時56分から 14時16分まで
委員の出欠	出席：国枝委員長、今井副委員長 伊藤(正)委員、小川(恒)委員、松村委員、伊藤(秀)委員、野島委員、山内委員 欠席：なし		
(付託案件の可否)			
(予算)	議第99号	令和2年度岐阜県一般会計補正予算のうち歳出予算補正中教育警察委員会関係及び債務負担行為補正中教育警察委員会関係	(可決)
(条例その他)	議第129号	パーソナルコンピュータの取得について	(可決)
	議第130号	パーソナルコンピュータの取得について	(可決)
	議題131号	パーソナルコンピュータ収納保管庫の取得について	(可決)
	議題132号	パーソナルコンピュータの取得について	(可決)
(請願)	請願第16号	コロナ禍のもと、子どもたちの安全と安心、学びと発達を保障する「少人数学級」の実現を求めます	(不採択)
	請願第17号	「学校での芸術鑑賞会の実施」を求める請願書	(不採択)
(質疑の内容)			
発言者	発言内容		
【9月補正予算】			
山内委員	熱交換型換気扇についてももう少し詳しく教えてほしい。		
教育財務課長	換気設備の整っていない教室に対し整備する予定であり、熱交換器を介して吸気と排気を同時に行うことで、室内の温度を抑制しながら換気を行う設備である。		
松村委員	日帰り修学旅行支援について、451校は県下全ての小中学校か。		
教育総務課長兼教育対策調整室長	県下の小中学校は全543校あるが、そのうち日帰りを予定していた学校のほか、検討中の学校に聞き取りを行った上で、中止や検討中の学校の半数程度を含めて451校と見込んでいる。		
松村委員	日帰り修学旅行支援対象として、関ヶ原古戦場記念館、かかみがはら航空宇宙博物館、杉原千畝記念館等と記載があるが、その他の施設に行く場合でも支援対象となるか。		
教育総務課長兼教育対策調整室長	対象施設は、ふるさと魅力体験事業と同様に、地域の魅力に触れることができる施設としている。修学旅行は教育活動であるため、どこでもいいとはいかないが、高山陣屋や白川郷など、岐阜県の魅力に触れることができる施設を幅広く対象としていきたい。		
小川(恒)委員	高校は来年度に延期できるが、小中学校はできない。中には宿泊での実施を希望する学校もあり、保護者からも希望する声を聞いている。これまでの説明では、高校と同様の対応を促しているように感じるが、このような対応となった経緯を説明してほしい。		

教育総務課長兼 教育対策調整室長	保護者からは、「最後なので行かせてあげたい」といった声がある一方で、「止めたほうがいい」といった声もある。岐阜県新型コロナウイルス感染症教育推進協議会において、専門家の方に伺ったところ、「宿泊は厳しいが、日帰りならリスクを回避して実施可能ではないか」との意見をいただき、高校の対応を決定した。市町村へは、「県の考え方を示してほしい」という意見を踏まえ、対応をお示ししたのが経緯である。また、市町村の対応状況を調査した結果、中止を検討している学校が多数あったことも一つの要因。各小中学校により事情が異なり、現時点でも宿泊での実施を予定している学校はある。設置者である市町村や学校が協議することであるため、県として強制したり決定したりすることはできない。
小川（恒）委員	市町村は決定権がある一方で、どこか判断の拠り所が欲しいと思っている。県が各々で判断するよう指導すべき。そうしないと、いつまでも県の対応を拠り所に判断してしまうと思うがどうか。
教育総務課長兼 教育対策調整室長	県の考え方を示すことで、市町村も同様の対応にしなければならないと捉えられてはいけない。学校ごと、地域ごとに事情が異なるため、強制と捉えられないように留意しているところだが、今後も市町村と意思疎通を図っていきたい。
小川（恒）委員	学校はP T Aや児童生徒に対して、県の方針だと説明する。方向性を示すことは、小中学校にとってありがたいことだが、自主的な運営が阻害されてはならない。今後、同様の事態が発生した際には、県の対応を判断の拠り所にするのではなく、市町村や学校で自主的な判断を行うよう県として指導すべき。
伊藤（秀）委員	家庭でのネットワーク環境に不都合のある生徒等へ貸与するタブレット端末の通信料と専用電話の運用継続に係る補正予算について、詳細を説明いただきたい。
参 与	補正予算額のうち、約2千万円はタブレットの通信料に関する経費。タブレットは、4、5月にオンライン授業を行った際、通信環境に不都合がある家庭への貸出用として整備したもので、3月まで貸出を継続するための通信料を積算している。 残りの約1千万円は、学校の固定電話の通話料に関する経費。学校の臨時休業により、家庭との生活指導面での連絡や学習指導面での質問対応のために、5月補正で追加した県立学校の固定電話156回線の3月までの通話料を積算したもの。
伊藤（秀）委員	タブレットの台数は。
参 与	当初1,100台購入し、必要な家庭に貸出を行った。その後、W i - F i環境が整ってきた家庭もあるため、今回は600台分の通信料を積算している。
伊藤（秀）委員	通信環境はW i - F iが主となるのか。
参 与	通信量が多くなればW i - F iが望ましい。従量制であってもある程度は対応できると考えられるが、生徒1人1台タブレット貸与の環境になれば状況も変わるため、様子を見ながら進めていきたい。
伊藤（秀）委員	W i - F i以外で通信料が安いものはないのか。
参 与	スマートフォンなどで使われている4GのL T E回線を使うこともできる。これは月々の通信量の上限が決まっているので、毎日3時間ずつ20日間程度の使用が最大であり、それ以上使うのであればW i - F i環境が望ましい。
国枝委員長	日帰り修学旅行支援について、全543校のうち中止や日帰りを決定していた学校はそれぞれ何校あったか。
教育総務課長兼	8月中旬の段階では、検討中の学校が300校以上あったが、現時点では150校程度

教育対策調整室長	に減っている。宿泊を検討している学校が100校程度、現在も中止を検討している学校が50校程度である。
国枝委員長	検討中ではなく、既に中止を決定していた学校は何校か。
教育総務課長兼教育対策調整室長	中止を含めて検討中としていた学校が非常に多く、そのうち中止の方向であった学校は60校程度である。しかし、あくまで検討中の枠の中での方向性であり、中止を決定していたと認識していた訳ではない。
国枝委員長	全543校のうち、中止の方向としていた学校は60校程度しかなく、その他の学校は宿泊や日帰りも含めて検討していたという理解でよいか。 また、7月30日に開催された岐阜県新型コロナウイルス感染症教育推進協議会の議事録によると、委員からは「宿泊は危険」、「県内で一泊二日に変更した学校がある」といった意見がある。市町村により様々な対応がある中で、なぜ日帰りのみを支援対象とするのか。平等に支援すべきではないか。 さらに、修学旅行の目的は見聞を広めるためとのことだが、例えば、「長島スパーランド」へ行く場合、見聞を広める施設になるのか。また、日帰りであれば支援があるのか。
教育総務課長兼教育対策調整室長	当初検討中であった学校では、現在、様々な選択を行っているのは事実。その中で、補助金については、岐阜県新型コロナウイルス感染症教育推進協議会での専門家の意見を踏まえ、日帰りに対する支援がよいと判断した。 修学旅行の目的は、見聞を広めること以外にも思い出作りなど学習指導要領には幅広く記載があるが、「長島スパーランド」のみではなく、行程の中に県内の魅力ある施設も含めていただくことが必要である。
国枝委員長	県外の日帰りも支援対象とするという理解でよいか。
教育総務課長兼教育対策調整室長	関ヶ原古戦場記念館と長浜城など、県内の魅力ある施設と県外施設の組み合わせで行程を検討している場合には、支援対象としていくことを考えている。
国枝委員長	対応の背景には、「県の考え方を示してほしい」という市町村からの意見があったかもしれないが、コロナ禍だからこそ、市町村教育委員会が知恵を絞って、子供たちの思い出作りとなる新しい修学旅行の形を検討できるよう、支援していただきたい。
【条例その他】	
	(質疑なし)
【請願】 コロナ禍のもと、子どもたちの安全と安心、学びと発達を保障する「少人数学級」の実現を求めます	
	※伊藤(秀)委員より不採択とすべき発言があり、採決の結果、不採択とすべきものとされた。
【請願】 「学校での芸術鑑賞会の実施」を求める請願書	
	※野島委員より不採択とすべき発言があり、採決の結果、不採択とすべきものとされた。
【陳情】	
	(質疑なし)
【その他報告】 事務事業の点検評価結果に関する報告について	
	(質疑なし)

【その他報告】教職員の働き方改革の取組状況について	
今井副委員長	勤務時間が50%も減ったということだが、業務量が減ったのか、人材が増えたのか。また、持ち帰り残業はないのか。
教育管理課長	仕事の持ち帰りは、定期考査の採点等の機会に多いと認識している。今年度については、学校再開後も、コロナ禍ということで業務を精査したことにより、業務そのものが減少したことに加え、コロナ対応等で業務が増えた部分については、外部人材を投入する体制を整えた。そのため、業務量の減少と人手を増やしたことの双方の相乗効果で、勤務時間の削減に繋がったものと考えている。
伊藤（秀）委員	部活動の先生が専門的となり、授業をやりながら部活も指導することで勤務時間がオーバーすると思う。強いチームは練習が厳しく、練習量も多くなると思うが、部活動の先生の勤務時間の管理はどうなっているか。
教育管理課長	部活動は学校管理下での活動になるため、平日の放課後も週休日も勤務として把握した上で、時間外勤務時間の中に含めている。
伊藤（秀）委員	専門の先生は部活動だけ指導するのではないのか。
教育管理課長	外部人材の話であれば、非常勤の指導者ということで、部活動の指導のみ行っている。特に部活動指導員は、教員のサポートに止まらず、教員に代わって単独指導ができる位置付けを与えているため、例えば、部活動指導員が教員に代わって引率業務を行うことで、週休日に顧問が勤務しなくてもよい体制を取りつつある。
伊藤（秀）委員	全ての部活動に専門の指導員を配置することは難しいと思うが、配置できるまでは教員が対応するのか。それとも1、2年ですべての部活動に計画的に配置する目標があるのか。
教職員課長	部活動は学校教育活動の一環であるため、実際に主に部活動に携わっているのは教員である。在校時間の分析を進めていく中で、長時間勤務中の部活動への従事時間は割合が高く、少しでも解決していくため、県立学校に60数名配置しているところ。国では部活動の地域移行の方向性を出しているところであり、そういったことも踏まえ、総合的に教員の負担軽減を図っていきたい。
伊藤（秀）委員	部活動指導に熱意のある教員は、仕事というより、子供たちのためにとという思いで指導している。教員の負担を減らす必要はあるが、教育と働き方改革との中で微妙な問題でもある。部活動は、生徒が少なくなり他の学校と合同で実施するなど複雑になっているが、子供中心の政策を行ってほしい。部活動での人間形成が働き方改革の中で失われていく可能性がある。
体育健康課長	部活動は教育活動の一環であり、教員と生徒の結びつきが強い。一方、働き方改革では教員の残業時間が問題となっている。部活動ガイドラインでは、生徒のケガ防止などの観点からも、部活動時間及び休養日の基準を定めている。短い部活動時間の中でも内容の濃い練習を行うことで、成果につながるよう今後も取り組んでいきたい。
伊藤（秀）委員	強くなるためには厳しい練習や多くの練習時間を要する場合もあるが、その反面、ケガの危険性や練習のしすぎといった問題もある。理解はできるので、今後もよろしくお願ひしたい。
山内委員	コロナ対応のための外部人材の配置について、来年度予算の方針や見通しは。
教職員課長	先日、国の概算要求資料が公表され、コロナ対応分として従来以上の予算が要求されている。6月の補正予算のように、国の補助金を活用していくことが基本的な考え方である

	ため、国の予算状況を注視し、最大限活用できるようにしていきたい。
山内委員	減らしてしまうと大変になるため、今後も継続してほしい。
【その他】	
伊藤（正）委員	高校入試が3月3日になったと報道された。コロナで臨時休業があったにもかかわらず、入試が例年より早くなった理由は。
参与	<p>中学3年生の受検機会を確保するためである。濃厚接触者であることが判明した場合、健康観察に2週間必要となるため、入試直前に判明した場合でも受検が可能となるよう、追試日の繰り下げに加え、入試の実施日を3月9日から3月3日に繰り上げることにした。</p> <p>これに伴い出題範囲の一部を削減している。入試後も、卒業式までの期間に授業を行うことで中学校での履修範囲はすべて終わることができる。</p>
伊藤（正）委員	例年と異なり、高校入試後に中学校の卒業式が行われることになった。このことに問題はないか。
参与	他県では、2月の終わりから高校入試を実施しているところもある。岐阜県でも過去には前期試験、後期試験と分けて実施していたため、在学中の高校入試の実施は問題ないと考えている。
伊藤（正）委員	合格発表日は何日か。
参与	3月21日である。
伊藤（正）委員	受検日から合格発表日までかなりの日数があり、受検生や父兄の精神的な負担が懸念される。このことについて、岐阜県新型コロナウイルス感染症教育推進協議会での議論はされたか。
参与	濃厚接触者となった場合の扱いについては、専門家から「2週間空けることが最優先である」との意見をいただいている。受検日から合格発表日までの日数はやや長いですが、新型コロナウイルスの感染等も視野に受検生の受検機会の確保を重視している。
伊藤（正）委員	不安を軽減するために、生徒、保護者らに趣旨を十分に説明してほしい。
参与	受検生に配布する入試関係の冊子等を活用し、新しい日程や試験範囲の削減を含め、市町村教育委員会に対し、中学校で丁寧に説明いただけるよう依頼していく。
野島委員	岐阜県における子供の感染者数は他県と比較してそれほど多くないのではないか。教員や子供たちは、三密回避、マスク、消毒等の対策をしっかりとっている。こうしたことを徹底しているからだと思うが、様々な制限がある中で、教員や子供たちの意欲を失くさないように、引き続き検討していただきたい。